

研究課題名	MET ex14 skipping 変異陽性肺癌の放射線画像的特徴を明らかにするための多施設共同後向き観察研究
研究責任者名	県立広島病院 呼吸器内科 主任部長 石川暢久
研究期間	2021年1月27日（倫理審査委員会承認日）～2022年3月31日
対象者	2018年1月1日から2020年12月31日の間に MET ex14 skipping 変異陽性肺癌と診断された成人患者さん。
意義・目的	肺癌は小細胞肺癌・非小細胞肺癌に大別されます。今日、非小細胞肺癌の治療においては EGFR 遺伝子変異をはじめとした腫瘍に特異的な遺伝子の変化を調べ、その結果に応じて治療薬を選択することが一般的に推奨されています。2020年6月に新規の治療標的として MET ex14 skipping 遺伝子変異に対する薬剤が使用可能になりました。MET ex14 skipping 遺伝子変異は非小細胞肺癌の中で最も頻度が高い肺腺癌の3-4%程度と非常に稀であり、高齢者や喫煙者に多く検出されることが知られています。しかし、CT 検査や PET-CT 検査におけるその放射線画像的特徴に関してはよくわかっていません。今回、MET ex14 skipping 変異陽性肺癌の画像的特徴を明らかにするため、本研究を計画しました。
方法	本研究は、すでに当院もしくは共同研究機関で診断された MET ex14 skipping 変異陽性肺癌の患者さんの放射線画像、診療録（カルテ）情報、腫瘍組織を調査して行います。カルテから使用する内容は「性別、年齢、既往歴、併存症、アレルギー歴、家族歴、喫煙歴、生活歴、PS、内服歴、治療経過（使用薬剤やその効果・副作用）、予後、血液学的検査[白血球数、分画、ヘモグロビン値、血小板数、Bil、AST、ALT、LDH、 γ -GTP、ALP、CK、TP、Alb、Na、Cl、K、Ca、BUN、Cre、CRP、KL-6、CEA、SLX、SCC、CYFRA、NSE、Pro-GRP]、呼吸機能検査、HRCT 所見、肺病理所見、遺伝子変異、腫瘍の PDL1-TPS」を予定しています。腫瘍組織は薄切されたパラフィン包埋切片で使用し、腫瘍の形態的特徴や免疫染色による蛋白発現パターンを確認します。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	広島大学大学院（研究代表機関）（研究代表者：教授 服部登） 広島市立広島市民病院（研究責任者：庄田浩康） 東広島医療センター（研究責任者：宮崎こすえ） 広島大学に情報を集め解析を行います。
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 服部 登
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で提供・公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずるこ

とはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5-54

TEL：082-254-1818（平日8：30～17：15）

県立広島病院呼吸器内科 部長 濱井宏介

研究機関：県立広島病院